

●収録内容

創刊号(昭和24年3月) 全頁
各号「目次」頁・各号「編輯後記」頁
創刊号(昭和28年2月号(全48号分))

●体裁

B5判(2面付け)・上製・総180頁

●解説

岸和田 仁(社団法人日本ブラジル中央協会理事)

●推薦

三田 千代子(元上智大学教授・社会人類学博士)

●刊行

2012年7月

●定価

本体19,000円+税 ISBN978-4-8350-7207-4



- | | | |
|---|---|---|
| <p>①軍医官の戦場報告意見集
高崎隆治編・解説 200頁
本体価格3,000円 1046-5</p> <p>②『集報』—南京日本人収容所新聞
山中徳雄編・解説 150頁
本体価格2,500円 1047-2</p> <p>③中華民国よりの掠奪文化財総目録
422頁
本体価格7,500円 1048-9</p> <p>④興亜青年勤労報国隊 東朝義記録
北博昭編・解説 297頁
本体価格5,500円 1049-6</p> <p>⑤火焰樹—東南アジア強制労働下の機関誌
北博昭編・解説 286頁
本体価格5,500円 1050-2</p> <p>⑥軍紀・風紀に関する資料
編輯厚編・解説 164頁
本体価格4,500円 1051-9</p> <p>⑦支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料
北博昭編・解説 300頁
本体価格7,500円 1052-6</p> <p>⑧俘虜情報局・俘虜取扱の記録(付)海軍兵学校「国際法」
茶園義男編・解説 420頁
本体価格15,000円 1053-3</p> <p>⑨GHQ(マ元帥)処刑命令書(上・下)
茶園義男編・解説 803頁
本体価格28,000円 1054-0</p> <p>⑩昭和十年前後期支那駐屯軍憲兵部文書
北博昭編・解説 266頁
本体価格9,000円 1057-1</p> <p>⑪朝鮮徴兵準備読本
金英達編・解説 120頁
本体価格4,500円 1058-8</p> <p>⑫特殊労働者の労務管理
飛田雄一編・解説 300頁
本体価格7,500円 1059-5</p> | <p>⑬大東亜舞台芸術研究所関係資料
藤田富士男編・解説 140頁
本体価格4,500円 1060-1</p> <p>⑭満州建設勤労奉仕隊関係資料
北博昭編・解説 626頁
本体価格18,000円 1061-8</p> <p>⑮『中国人日本留学史稿』
小川博編・解説 230頁
本体価格5,500円 1062-5</p> <p>⑯興亜学生勤労報国隊関係資料
北博昭編・解説 568頁
本体価格17,000円 1063-2</p> <p>⑰興亜院刊行図書・雑誌目録
井村哲郎編・解説 300頁
本体価格7,500円 1064-9</p> <p>⑱久米島住民虐殺事件資料
吉浜巖編・解説 210頁
本体価格6,500円 1065-6</p> <p>⑲学生義勇軍関係資料
北博昭編・解説 325頁
本体価格15,000円 1066-3</p> <p>⑳二・二六事件警察秘録
北博昭編・解説 380頁
本体価格16,000円 1067-0</p> | <p>補集①
原子爆弾災害調査報告 全5冊
大滝英征解説 総1,794頁
本体価格61,500円 7200-5</p> <p>補集②
唯研ニュース
渋谷一夫・北林雅洋解説 424頁
本体価格19,000円 7206-7</p> <p>補集③
輝号「ブラジル「勝ち組」広報誌」
岸和田 仁解説 180頁
本体価格19,000円 7207-4</p> |
|---|---|---|

※ISBNはすべて978-4-8350-が頭につきます。

不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替001600294084

十五年戦争重要文献シリーズ 補集3

かがやき
輝号
ごう
「ブラジル「勝ち組」広報誌」

編集復刻版

全1巻
1949年～1953年

B5判・上製・総180頁
解説…岸和田 仁
推薦…三田千代子
刊行…2012年7月
定価…本体19,000円+税

不二出版

戦後のブラジル日系人社会における
「勝ち組」思想を読み解くための貴重資料！

第二次大戦後のブラジル日系社会では「勝ち組」、「負け組」というふたつの思想的な対立が顕著となった。「勝ち組」とは日本の敗戦を信じなかった日本人移民のことで「信念派」、「強硬派」と呼ばれ、一九四六年から四七年の時点ではブラジル日系社会の八割が「勝ち組」だった。一方「負け組」の人たちは、「認識派」、「敗戦派」と呼ばれ、ポルトガル語の新聞を読むことができるなど、多くの情報を得ることができた日系社会の指導層、知識層であった。

「輝号」はこの「勝ち組」の広報誌として一九四九年三月から一九五三年二月までの五年間刊行された、「勝ち組」のメディアとして代表的ともいえる雑誌だった。

現在、原本は残存しているものも少なく、非常に希少である。今回の復刻にあたっては、解説執筆者でもある岸和田氏が、一九八〇年頃にブラジルの日本語古書店で発見したものを主に使用させていただいた。

「輝号」の中を覗いてみると「大東亜聖戦記」「八紘一宇」「神国不敗」といった語句が確認できるが、こうした「勝ち組」の運動を、無知からくる狂信的な運動として単純に位置付けてしまうのではなく、当時のブラジル日系社会を知るための貴重な史料であるとして復刻した。



なぜ日本の敗戦を受け止められなかったのか？

—ブラジル「勝ち組」の精神世界を知るために—

三田千代子（元上智大学教授・社会人類学博士）

一九四一年の日米開戦によって米国政府は、日系アメリカ人を海岸地帯から内陸部に強制的に移動させ収容した。これは、日本軍の情報活動に日系アメリカ人が利用されることを米政府が恐れたためである。日本ではこの日系人の強制収容は、国境を越えた移民が戦争とナショナリズムに巻き込まれた苦難の経験としてよく知られる史実である。ところが、ブラジルでナショナリズムの高揚と戦争という同様の状況に直面した日本移民の社会的葛藤については、出来事の展開が複雑なこともあり、移民研究において必ずしも十分な議論はなされてこなかった。今回の不二出版による『輝号』の復刻によってブラジル移民研究が大いに議論されるようになることを期待したい。

一九〇八年に北米移民の代替送出先となったブラジルには、ブラジル政府が枢軸諸国と国交を断絶する一九四二年までに一九万人余の日本移民が送出されており、その子孫も含めると当時日系人総数は約五〇万人と推定されていた。そのほとんどはサンパウロ州内に集住して農業に従事し、当時の日本の村落共同体を模した「日本人村」を形成していた。

ブラジル向け日本移民が最盛期を迎えた一九三〇年代にブラジルでは、国家統合を果たすためにナショナリズムが強化された。しかもヨーロッパ移民を主に導入してきたブラジルで日本移民は、文化的にも身体的にも異なる故に注目される存在となっていた。さらに国民国家（nation-state）の建設を目指して外国移民の導入を制限するようになったブラジルは三〇年代後半に、移民子弟に対する外国語教育の禁止、同一民族による集団地形成の禁止、そして戦時体制に入ると枢軸国の言語の使用禁止と、一連の同化政策を進めた。しかし、ヨーロッパ移民とは文化的同質性において異なる日本移民にはこれら同化政策は容易に実現できるものではなく、とりわけ日本民族の誇りとしていた日本語の使用禁止は、日本移民には日本民族の否定と受け止められた。そして一九四三年に国交が断絶されると、政治・経済・文化的に日本移民を祖国と結びつけてきた大使館、領事館、商社、移民会社は閉鎖され、外交官や駐在員は交換船で帰国してしまった。日本移民はブラジルで敵性外国人として残されたのである。

こうしたブラジル（より正確にはサンパウロ）の社会文化的状況の中で、一九四五年、日本移民に祖国敗戦の報が伝えられた。戦果を直ちに受け入れられない者、あるいは認められない者（当時「勝ち組」と呼ばれた）の一部は暴力行為に訴える事件を起こした。日本の敗戦を受け止めようとする同胞を「裏切り者」として暗殺する事件が、ブラジル社会を巻き込んで起こったのである。

この日本の敗戦を受け入れられず、神国日本を信じ続けた「勝ち組」は一九六〇年代においても、その主張に変化は見られるものの、存在し続けていた。ある特定の社会文化的状況の中で形成された「勝ち組」の世界観、すなわち祖国日本や移民先ブラジルに関する認識形態を知る一次資料を纏まった形で手にする事は日本ではきわめて限られている。「勝ち組」の精神世界は、たまたま残された個人の日記や短期間で次々発行を中止した『勝ち組』の雑誌から部分的に考察されてきた。『輝号』は、戦後日本移民社会が祖国日本の救援活動、戦後移民の再開、サンパウロ市四百年記念祭の参加などを通じて再構築されていくなかで、刊行され続けたものである。五年間にわたる『輝号』の復刻版を今手にすることによって、当時の「勝ち組」の精神世界を総体的に把握するのに役立つことになるであろう。このことは、移民研究者のみならず、社会アノミイ論、反文化変容運動、ナショナリズムなどに関心を寄せる社会学や人類学の研究の徒にとっても大いに喜ばしいことである。



●関連図書

公益財団法人渋沢栄一記念財団研究部 編
実業家とブラジル移民

A5判・上製・270頁
本体価格3,800円＋税

本書はブラジル移民の生活を支える移住事業を企画経営した実業家に注目し、彼らがブラジルでの移住事業に対してどのような構想を抱き、それを企業活動としてどう具体化し、実現させたのかを明らかにする。また、移住事業を支えた金融、海運、国際関係についても分析する。

三田千代子 著
「出稼ぎ」から「デカセギ」へ
—ブラジル移民一〇〇年にみる
人と文化のダイナミズム—

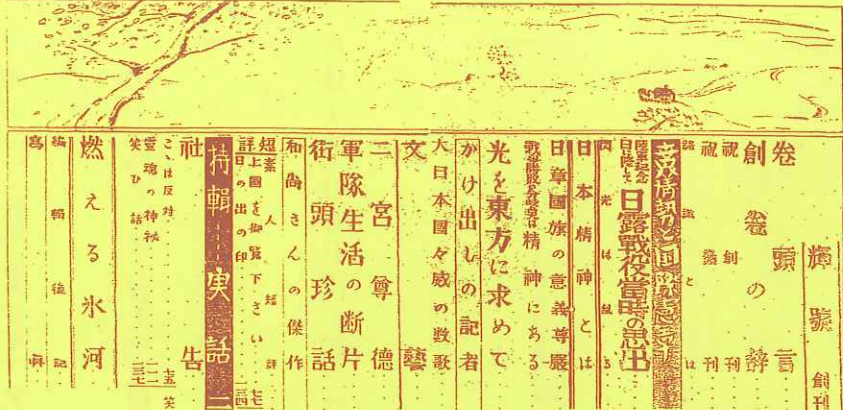
A5判・並製・296頁
本体価格2,000円＋税

一九〇八年に始まるブラジル移民。この一〇〇年のブラジルと日本との移民の社会文化史を追うことによって、去りし者Ⅱ出移民と、来たりし者Ⅱ入移民によるヒトの移動によってもたらされた文化のダイナミックな変容を考察する。

外務省通商局 編／大正11年5月、昭和6年9月刊
移民地事情 全10巻・別冊1〔復刻版〕

A5判・上製・総4,810頁
揃定価191,000円＋税

本書は大正一一年五月から昭和六年九月まで二七巻が発行された。主に日本から中南米地域の移民受入地の視察報告をまとめて、不定期で刊行された。その内容は、移民地の詳細な地図と写真が多数掲載されており、当時の移民受入国の実情と、移民の実態を知ることができる貴重な資料である。



創刊の辞

今次大戦は在伯日本人にとり峻厳な試験であつた。凡ての日本人は教養や地位や名譽や財産等、一切の屬性とは關係なく一つの範疇を濾過されて、日本精神を有する者と失へる者とに區別された。日本人が日本人により、日本精神の有無を論議されたと云ふことは、如何にも不健全な心理風景である。

日本精神とは何か、と問はれて躊躇なく應へ得る人は少いであらう。それは必ずしも日本精神の缺如を意味するものではなく、明確に言葉で表現出来ないものであつて、強ち非難の対象とはならない。精神は、命題として如何に理論づけられても一つの判断に過ぎなく、行爲として表現されるか或はその用意があつて始めて價值が生ずるのである。

民族精神は知性による知識ではなく、民族が無意識の中に持つてゐる本能的で而も宗教的な感情と意志である。即ち思惟により概念として理解しても、自己の心として把握し難いものである。故に如何に高い教養と知識も、民族精神の深さを標示する状態とはならない。日本精神が最も顕明に而も素朴に表現されたものは忠義

編輯後記

▲田崎仁義博士の「皇道扶桑の精神を仰ぎつゝは、我々の信念の正しさを具體的に説明したものとも見られる。前々號に見聞士は、「日本民族は、古來、天皇と國民との二大陸から成立してゐるものであつて、これは、日本が憲法を制定するに先立って、一つの事實である」と述べてゐるが、全くその通りで、皇室と國民との關係は作られたものではなく、自然に生れた必然であつて、大木の本と枝葉の關係に等しいものである。この理を否定するのは國家を滅亡に陥れるものである。

▲本傳べられるところは、一時混亂状態にあつたといふ日本も、依然として皇室を中心に嚴然たる秩序を維持してゐることは、當然といへば力盡き果てである。影山正治氏の「維新の首領は、よくその事實を説明してゐる。

▲短歌原稿は締切までに間に合はなかつたので、掲載することが出来なかつた。